

### (3) 県立中村中学校

学 校 長 山崎 源生  
校内研究代表者 長尾 隆広

#### 1. 研究主題

**学習の目的に向かって様々な情報から根拠を明確にし、  
自分の考えや思いを意欲的に表現し合える発問・学習活動の研究  
～生徒が安心して学べる居場所づくりをベースとした授業改善～**

#### 2. 主題設定の理由

本校生徒は、通学区域が広範囲で多くの小学校から集まった集団である。素直で優しい生徒が多く、落ち着いた学校生活を送っている。一方で、まわりとの人間関係を築くことを苦手としている生徒が増加傾向にあり、Q-Uアンケートにおいて要支援群に属する、発達障害等により人間関係づくりに課題がある、自分の悩みや心配事を自ら相談できないといった生徒も多数いる。また、学習面においては、語句の定義や意味を理解できていない、与えられた資料から必要な情報を見つけたり、複数ある情報や条件を整理したりそれに基づいて論理的や簡潔・明瞭に表現したりすること、表現の中に必要な情報がないといった課題がある。また家庭学習時間は年々減少傾向にあり学年が上がるごとに少なくなる。主体的に学ぶ意欲のある生徒とそうでない生徒の格差が開いていることも課題である。昨年度よりはICTを活用している教員が増えたが、めあての設定の仕方について、自分の考えや思いを意欲的に表現し合える発問のさせ方にまだ課題がある。

上記の課題から、生徒指導の三機能・特別支援教育・道徳教育・特別活動の充実を図り生徒が安心して学べて表現し合える居場所づくりをベースとし、生徒が意欲的に目的に応じて複数の情報を取捨選択しそれをもとに根拠を明確にして論理的に表現し合えることができるような発問やめあての設定、学習活動を研究し授業改善をしていく必要がある。

#### 3. 研究の進め方と方法

本校は中高一貫教育校であるため、校内研究は中高合同で行っているものと中学校独自で行っているものがあり研修計画も分掌を中心に立案し研究を進めている。令和6年度からは中学校独自の様々な課題について研修する時間を確保するため、月2回の中学校校内研・確認会の時間を設定した。

☆中学校独自

- 校内研修・確認会(月2回)○サポート委員会(月1回)○教科会(週1回)○学年部会(週1回)
- ・研究授業(年2回)…年度当初に、研究主題に沿った参観の視点を設定し、指導案検討・公開授業・研究協議を実施

(参観の視点)①生徒が自分の考えや思いを表現するための発問や学習活動は適切であったか。

②生徒は根拠を明確にして考えたり伝えたりすることができていたか。

- ・授業改善プラン教科共通の1年間の取組の重点をもとにした検証

- ①基礎・基本の定着
- ②根拠を明確にして、自分の考えを相手に伝える等の表現力の育成
- ③生徒が意欲的に問題解決する場面の設定

☆中高合同校内研修

- 進路指導部・・・進路、学習関係全般
- 総務部・・・防災関係全般
- サポート部、生徒指導部・・・生徒の心のケア、人権教育、生徒指導関係全般
- 研修部・・・ピアチューターや課題研究

#### 4. 研究内容

☆中学校独自 ※重点的な研修内容⇒**生徒が安心して学べる居場所づくり**、**授業改善**

4月：今年度の研究主題や研究の方向性等の確認

5月：生徒が安心して学べる居場所づくり(インクルーシブ教育・発達障害への理解など)

※講師：西部教育事務所 奥宮指導主事

学級経営案の共有

6月：全国学力・学習状況調査(自校採点)の分析の共有、学力向上研究主任会の報告

7月：研究授業①(1年数学科)指導案検討・授業研・事後研

1学期の総括と2学期に向けて

講話※講師：西部教育事務所 小谷野指導主事

i 一人一台端末の具体的な活用方法 ii 効果的な家庭学習の方法

iii クラウドの特徴を生かした学習者主体の授業づくり

8月：全国学力・学習状況調査(業者採点)の分析

9月：研究授業②(2年社会科)指導案検討

10月：学力差をなくすための取組、落ち着いて勉強ができる環境づくり

講話：ICTの活用について

研究授業②(2年社会科)公開授業・研究協議

※講師：西部教育事務所 河野指導主事

11月：デジタル学習基盤の効果的な活用に向けて

1月：県学力定着状況調査自校採点の分析

2月：年度末検証

3月：県学力定着状況調査業者採点の分析、来年度の研究主題等の確認

- ・サポート委員会⇒サポートの必要な生徒の情報共有と支援の在り方、SOSの出し方に関する教育
- ・教科会⇒授業づくりや学習進度確認等
- ・学年部会⇒生徒支援、道徳、学級活動、総合的な学習の時間等について

☆中学校、高校合同の取り組み

<進路指導部：学力向上のための組織的な取り組み>

①毎週月曜日実施の確認テスト

国語・数学・英語の順に毎週実施(不合格者は再テストまたは課題)

②家庭学習時間調査(年3回実施)

生徒の家庭での学習の状況を定期的に把握し、日々の指導に生かす。また、保護者への啓発と協力の要請に活用する。

③高校教員との異教科間の相互授業参観

校種と教科を超えた相互授業参観を実施し、相互に評価し合う。高校での授業の様子を見ることができると同時に、県中卒業生の成長を知ることができる。

<サポート部>

- ・Q-Uアンケート(年2回)と学校生活アンケート(年5回)の実施と実施後の迅速なアンケート集計とその対応
- ・アンケート等の結果を受けて、その日のうちに気になる生徒に面談等の実施。
- ・いじめ検討委員会(随時)の開催
- ・SOSの出し方に関する教育の推進

<研修部>

- ・中高6年間を見通したキャリアプラン、「総合的な学習の時間」の見直し
- ・ピアチューター：中学生と高校生との異校種間交流

## 5. 今年度の成果と課題

【家庭学習時間調査】：平日の家庭学習時間（昨年度2月⇒6月⇒11月）

1年:86分⇒72分、2年:93分⇒76分⇒66分、3年:54分⇒54分⇒60分

【教員授業づくりアンケート】※昨年度比→①と②の合計

- ・授業において「めあて」の提示ができています。  
⇒①できている：50.0% ②概ねできている：37.5% (昨年度比-12.5)
- ・授業において「まとめ」「振り返り」ができています  
⇒①できている：25.0% ②概ねできている：62.5% (昨年度比+4.2)
- ・分かりやすい授業になるように工夫しています  
⇒①工夫している：37.5% ②概ね工夫している：67.5% (昨年度比±0)
- ・授業においてタブレットなどのICTを活用している  
⇒①活用している：25.0% ②概ね活用している：62.5% (昨年度比+12.5)

【学校評価アンケート】

- ・(生徒は)学校での生活に満足している ⇒生徒 95.8%、保護者 81.8%
- ・(生徒は)目標を持って学校生活を送っている ⇒生徒 75.7%、保護者 56.0%
- ・(生徒は)悩みや心配事があるとき、教職員に相談している ⇒生徒 52.1%、保護者 58.3%
- ・分かりやすい授業が多い ⇒生徒 93.1%、保護者 47.0%
- ・教材や教え方を工夫している教職員が多い ⇒生徒 91.0%、保護者 41.7%

「生徒が安心して学べる居場所づくり」については、日々の生徒との関わりを中心として、講師を招聘しての発達障害への理解やSOSの出し方に関する教育についてなどの研修、SC・SSWの助言、外部機関との連携、大学院で研修中の教諭による実践提案等をもとに、生徒が安心して学べる居場所づくりに努めてきた。「学校での生活に満足している」(前年比生徒-2.0・保護者-3.7)や「悩みや心配事があるとき、教職員に相談している」(前年比生徒-0.7・保護者-12.9)は前年と比べて低くなっており、不登校や別室登校の生徒、発達障害などにより人間関係づくりなどに支援が必要な生徒への取り組みについて課題が残る。

「授業改善」については、年度当初に研究主題や授業研の視点、授業スタンダード等を確認し、それをもとに年2回の研究授業を実施した。また、各種学力調査の結果分析や各教科の授業改善プランなどの共有なども行い、授業改善の意識を高めてきた。しかしながら、用語の意味的理解や基礎的な知識・技能の定着、情報の読み取りや複数のある情報を活用し思考・判断・表現すること、家庭学習時間、学ぶ意欲や学力定着の生徒間格差等といった課題については、引き続き課題が残っている。またICTについては昨年度より活用できている教員が増えた一方、めあての設定に課題が残り、授業の内容に応じた適切なめあての設定するための研修が必要な状況である。

上記の内容から来年度も「生徒が安心して学べる居場所づくり」をベースとした上で「授業改善」をしていく必要がある。今年度同様、生徒指導の三機能・特別支援教育・道徳教育・特別活動の充実を図り生徒が安心して学べる居場所づくりを進めるとともに、特に特別支援の視点での生徒理解や人間関係づくりといった研修を行っていく。また、授業改善においては、今年度の「授業改善プランの教科共通の1年間の取組の重点」を継続していくとともに、様々な情報から根拠を明確にし、自分の考えや思いを意欲的に表現し合える発問ができる、適切なめあてを設定した授業づくりができるような研究・研修を進め、本校の課題が克服できるようにしていく。